

コワニグチソウがあり、この2種は苞のつく所も多少違うようであるが決定的な違いは花糸の粉状毛の有無であるという。視力が弱いので清水会長にお願いして粉状毛のあることが分かった。これで、これらは何れもコワニグチソウであることが分かった。

ただコワニグチソウは苞が小梗の中程につくのが普通ようであるが、これらは上端につく点で異なっているが保育社の図鑑によれば山梨県塩山市のものも上部のようであり、それよりは粉状毛の有無の方が重要であろう。このようにしてコワニグチソウの分布の広いことが分かったので今後その他の所でも見つかる可能性がある。

ただし檜川村のものは苞が大きく開出ししない点その他からみて1品種と認めることも出来そうである。その場合はこれをキソワニグチソウと呼ぶこととしたい。

5. タニウツギの分布 裏日本要素の一つとみられているタニウツギについては西は鳥取県の大山から北は青森県にかけて分布を知ることが出来た。長野県内でも新潟県寄りの各地で多く見られるが、その南限については不明である。北安地方では神奈川博物館研究報告で高橋・平林両氏がブナ帯の山地各地

にありとし、南安の郡誌にも目録には出ているが具体的な地名は出ていない。東筑摩郡松本市誌にも生坂村にあると記されているが、この地は現在北安曇郡に編入されている山清路で、清水教授と横内文人氏の採品があるので、これが一広南限とみられた。

しかしそれから南には進んでいないのか、南安にはないのかという点に注意してきたところ一昨年安房峠と中の湯との間でバスの中からそれらしいものを見、昨年その標本も採ることが出来た。

安房峠から西にはニシキウツギが目につくが平湯温泉に下ればタニウツギも見られる。飛騨地方は植物地理上裏日本の一部とされていてタニウツギも広く分布しているので、この地への分布は飛騨側と関係をもつように考えられる。今後もこれより南や北安との中間の分布に注意したい。

6. 賤母国有林の植物について訂正 本誌第11号に掲載した本国有林の植物目録中、*P. tipuloides* Lindl. ホソバノキソチドリを *P. ophrydioides* Fr. Schm. var. *australis* Ohwi ナガバキソチドリと訂正する。

この報告にあたり種の同定には清水会長のご指導をいただいたので感謝の意を表する。

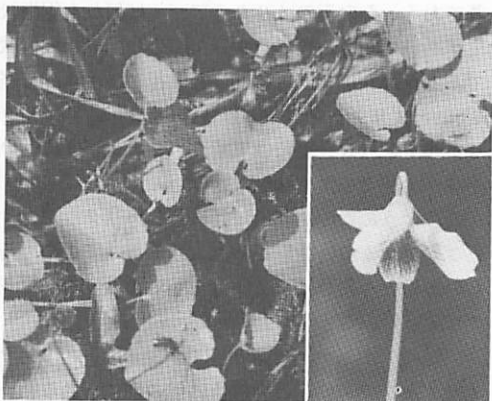
〔植物ニュース〕72. チシマウスバスマイレ *Viola blandiformis* Nakai var. *pilosa* Hara

1983年6月12日、柳は下高井郡木島平村馬曲の奥赤ダレ湿原——標高およそ1370mにおいて、湿原植物の観察を実施し、タテヤマリンドウの群生を確認した。その際スマイレも分布するので種類を知りたいと考えた。6月19日、藤澤と柳は、同湿原を踏査し、リュウキンカ・ハクサンチドリ・マイヅルソウ・タテヤマリンドウ・モウセンゴケほか60種近い植物を記録した。この折、スマイレにはチシマウスバスマイレとアギスマイレがあり、前者は小群落であり、後者は大群落であった。チシマウスバスマイレは開花も観察でき、果実も熟していた。また葉面の白毛もみられ、はふく茎もみられた。このスマイレは昭和29年5月31日、横内斎先生が下水内郡栗村野々海湖畔で発見されたのが県下初の記録であった。藤澤はこの折の調査行に同行したがその6年後の昭和35年8月5日、下高井郡木島平村カヤノ平北方の北ドブ湿原にて再発見し、チシマウスバスマイレの南限分布地として記録した。今回の赤ダレ湿原の発見は前記録の23年後にあたるが前記南限地より1300mほど北に存在している。馬曲奥には本澤湿原もあり今後調査したい。

チシマウスバスマイレは1828年にW. Becker によ

り、カムチャッカより記載され、南カムチャッカ・南カラフト・千島列島に産し、日本では北海道(根室)・秋田県(鳥海山)・岩手県(五葉山)・群馬県(尾瀬)・福島県(駒止湿原)・栃木県(横根山)・長野県(野々海湿原・北ドブ湿原・赤ダレ湿原)に分布する。しかし現在野々海湿原では池畔開発により絶滅したようにみえる。

チシマウスバスマイレは、今後、木島平村・栗村の奥地湿原で注意深く調査する必要がある。



チシマウスバスマイレとその花

(藤澤正平・柳莊一郎)